

【議事概要】徳島県立埋蔵文化財総合センター

問：入場者数と入場者を増やすための情報発信方法について

答：来館者数の年間トータルは現在、目標としている9,300人は割り込んでいるところであるが、イベントの参加人数は増加している。コロナ対策として、従来よりイベントの定員を少なくしているが、その分2回開催であったところを3回開催にするなど、回数を増やして多くの人に参加いただけるよう工夫している。

問：今の利用者の層、今後どのような利用者層を確保していきたいか。

答：今は遠足での利用が多いほか、お子様でも歴史に触れてもらえるようなメニューを用意しているので、親子連れも多くなっている。若年層に埋蔵文化財への関心を持ってもらいたい。

問：年間9,300人目標のところ、何人来ているのか。

答：コロナ前は約12,000人ご利用いただいていたが、令和2年度以降はコロナの影響もあり、7,000人を切っている状況。しかし、イベントのPR等に努めたところ、今年度上半期の利用者数は前年度と比べると増加している。

問：コロナ禍になってから新しく企画したことや、力を入れたことはあるか。

答：古代体験やクイズのほか、外で実施できる遺跡ウォーキングなど。

問：休日の受付案内対応について、シルバー人材センターからの意向により契約解除とのことだが、その理由は。

答：地域貢献の点からもシルバー人材センターにご協力いただいていたが、高齢化や体調面の都合で継続するのが困難になったと聞いている。今後、若い世代にも興味をもってもらいたいことから、県内4大学にアルバイトの案内をしたところ、四国大学の学生に引き受けてもらうことになった。

問：勾玉づくり等で原材料費を受益者負担にすることはいいと思うが、自主収入を増やす方法として、クラウドファンディングや企業からのファンド協力をお願いできれば、受益者負担をかけない取組が出来ると思う。

答：地域連携の形を変えて、収益に結びつくようなことが出来ればと考えている。受益者負担については、原材料が上がってきているが、来館者の負担にならないようにしていきたい。

問：遠足利用が多いようだが、センターだけに来るのか。

答：主にはあすたむらんどからセンターに来ることが多い。